

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

曾於市長 五位塚 剛

市町村名 (市町村コード)	曾於市 (462174)	
地域名 (地域内農業集落名)	坂元地区 (坂元, 新坂元, 中坂元, 二重堀, 立馬, 段坂元, 東坂元, 上坂元, 榎木段, 坂元榎木段, 清津野, 神牟礼)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年11月7日 (第 1 回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

担い手の高齢化が進んでおり、田んぼは特に厳しい谷間にあり日当たりが悪い農地が多く遊休農地が増えてきている。畑については特に条件の悪い所がないため規模拡大を希望する若い担い手へ集約をしてきたい。山に囲まれていることから鳥獣被害も増えており、イノシシや穴熊、最近は鹿の被害も増えてきているため、早急な対策が求められている。多面組織が地区内に4か所あることから今後は中心となって農地を守っていききたい。

【地域の基礎的データ】

農業者:252人(うち50歳代以下11人)、認定農業者:35人、基本構想水準到達者:27人、団体経営体:5経営体、畜産農家:29戸

主要作物:水稲、飼料作物、甘藷、露地野菜(ゴボウ、大根等)

(2) 地域における農業の将来の在り方

高齢化が進んでいることから、多面組織と若手を中心とした集約化を進めていきたい。また、霧島市と隣接していることから市外の耕作者も多いことからそちらとも連携をとって耕作放棄地を増やさない取り組みを行いたい。鳥獣対策が緊急の課題であるので捕獲人材の確保・育成にも市と連携して力を入れていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	296 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	296 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を考え、段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
担い手のニーズを踏まえ、農用地の大区画化・農道の整備(拡幅)を現在の地域計画の地域を細分化して話し合い活動を行って行きたい。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

①山に隣接している農地ではイノシシ被害が増加している。目撃情報や被害情報があった際には速やかに対応できる体制を構築することで周辺への被害を防ぐとともに、市の電気柵設置補助金制度等を利用して防除するとともに、捕獲人材の確保・育成を進める。